

新晃工業

—平成二十九年を振り返って、特に印象に残ったことからお話し下さい。

「東京オリンピックまで千日を切り、各スポーツ界の注目選手が台頭し始め盛り上がりを見せる中で、国内では世界各国の方々を迎え入れるおもてなし準備が進み、日本経済の回復基調をもって各企業では人材クローバル化や設備投資・新規建設が進んでいます。」

一方、地球温暖化傾向の懸念は今も続き、通年で台風・地震等の天災による被害は止まず、環境づくり

に關わる企業として力を尽くし進化すること止みませぬ」

—御社のビジネスや業界関連で特に印象に残った



ことは…。

今モノづくりの業界においてAI（人工知能）とIoT（モノのインターネット）の融合による大きな進化の

口火は切られており、昨年は予測保全をキーワードとする各社製品が発表されました。

—今後もIoTとAIは浸

年重点目標や課題などを御聞かせ下さい。

「新しい年を迎える中で、セントラル空調は冷水大温度差・中温冷水・還水温度

努力が欠かせません。当社は昨年、高静圧対応FCUをリリースし、ACモータとDCモータを揃え省エネ環境づくりに応えて

規建築および更新工事ではビル用マルチ方式が採用されおり、省エネ性と快適性を生むヒートポンプ空調

を搭載し、予防保全を計画しました。今年も製品開発の目標に省エネを掲げ、送風機「熱交換器」のデバ

現在運用いただいている機器につきましては、メンテナンス部門と共に故障予知、診断システム構築を進めてまいります。回転

未来に向けた夢などがございましてご紹介下さい。社が四季を持つ日本の環境に最適な製品の開発とモノづくりに取り組みまいります。

「エネルギーと環境への取り組みとして、今後もZEBが注目され、BEMSデータとコミッションング

かす、「運用の見える化」がさらに加速する中で、弊社は四季を持つ日本の環境に最適な製品の開発とモノづくりに取り組みまいります。

本年も、ユーザー様ご採用いただく施工会社様にご満足いただける製品をご提供し、皆様にご愛顧と信頼をいただき、皆様と共に成長していきたいと考えております。引き続き、弊社製品をご愛顧賜りますようお願い申し上げます。

環境に最適な製品開発

技術本部第二テクニカルセンター長 青柳 泰之氏 執行役員

一定等々の組み合わせをもつて潜熱分離システムの高効率運転追求が行われ、機器メーカーはデバイスと製品の開発による効率向上

また、近年の小規模な新規に各種センサと監視装置

—新しい年・平成三十

—新年の目標や抱負、

等々を組み合わせて特徴を生

し上げます」